



# 中筋小学校だより

校訓 ～ 強い身体 正しい心 ～

舞鶴市立中筋小学校  
学校だより 2月号  
令和5年1月31日発行  
<http://nakasuji.maizuru.edumap.jp/>  
☎75-0372

## “主語”はだれ？

15年ほど昔の話になりますが、私は仕事の関係で外国の方（英語圏）とメールでやり取りをしなければならぬ機会がありました。学校の英語教育の課題をまさに絵にかいたような私は、話すことも英文を考えることも苦手で、インターネットの翻訳サイトを頼って、相手に送る文面を考えていました。



今のようにまだまだ技術が進んでいなかったのか、選んだサイトが悪かったのか、メールのやり取りをした外国の方と実際に会った時に、「あなたが以前に送ってくれたメールには、笑わせてもらったよ」と言われました。理由を聞くと、文章がすべて「I t」で始まっていて、誰が書いているのか（言っているのか）まったく通じなかったということでした。そうです。日本人は、会話をする際について「主語」を言わずに話を進めてしまう特徴があります。話す相手を見て、「今日、朝ごはん何食べた？」と聞きます。英語の場合は、必ず「y o u」が入ります。私は、いつも話しているように、翻訳サイトの日本語入力で「主語」の「私は」という言葉を入れずに入力していたので、翻訳サイトはすべて主語を「I t」と訳していたのです。

前段が長くなりましたが、人間関係を上手に築いていったり、関係をよりよく保つたりするために大切な要素として、「『主語』を誰にして考えるか」ということがあると思います。いつもいつも自分を主語にして、「私は～と考えるから～する。」「私が～したいから～する。」といったように考えていると、独りよがり自分勝手な人と思われてしまい、人間関係もうまくいかない可能性が出てきます。「自分は～だけど、人はどうだろう？」「自分はの方がいいと思うけど、人はどちらの方がいいかな？」自分の意見や要望に対し、主語を置き換えて考えることによって、その人の行動は、自分ではない誰かのための行動に変わります。子どもであろうが、大人であろうが、今から起こそうとする行動は、誰が「主語」になっているかを立ち止まって考えることが、人間関係を構築する上で大切であることを子どもたちには絶えず伝えていきたいと思っています。4月が来れば、新しい環境で一から人間関係を作っていかなければならない子どもたちも多くいます。環境は変わらないけど、よりよい人間関係を再構築することも求められる子どもたちもいます。教師は、「自分がされて嫌なことは、人にはしません。」「自分がされたらどんな気持ちになるか考えてごらん。」と常に子どもたちの心に響く分かりやすい働きかけを考えます。この「『主語』を誰にするか」という問いかけも、子どもたちの心に響く働きかけとして、教師の引き出しの一つにしたいと思っています。

「主語」を自分に関わる人にして、優しい関わりや言葉がけでつなぎ、最後の「述語」は、「学校っていいな」と締めくくることができることを今後も大切にしていきます。そんなふうに考えているんだよという“思い”は目には見えませんが、きっと「主語」を意識することで“思いやり”となって目に見えてくる、そんな思いやりいっぱい学校にしていきたいと考えています。



これからますます寒さが厳しくなっていきます。新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザの流行も危惧されます。今月もどうか感染防止を含め、子どもたちが元気に学校生活を送れますよう、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

校長 亀井 敬介 教職員一同

### 書き損じはがき、ありがとうございました。

「ユネスコの寺子屋運動」と京都府PTA協議会の基金のために書き損じはがきの回収にご協力いただきありがとうございました。大変たくさんの書き損じはがきが集まりました。全部で115枚集まりました。ご協力いただいたはがきは、ユネスコ協会と京都府PTA協議会の方へ分けて送らせていただきます。皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

### 除雪作業お世話になりました。

1月下旬の大雪の際には、児童の通学路確保のため、各地域や保護者の皆様には、通学路の除雪作業を大変お世話になりました。

おかげさまで、大雪にもかかわらず児童は事故もなく登下校できました。今後も降雪の際には、お世話になれたら幸いです。

ありがとうございました。